

✚ 袋掛け（概ね6月末までに完了する）

【ねらい】

①せん孔細菌病対策

- ・せん孔細菌病対策の一つとして袋掛けをし、感染予防の強化をする。
- ⇒病斑の除去（春型枝病斑、葉病斑、果実病斑）、定期散布の徹底と併せて実施

②果実の肌荒れ、裂果防止対策

- ・直射日光や風雨によって果面に肌荒れ・サビ・ヒビが生じ、またそこから成熟前の降雨により裂果が発生するため、袋掛けを実施し果面の保護をする。

③病害虫対策

- ・降雨による「腐敗性病害」や「せん孔細菌病」の感染予防。野蛾、カメムシ類の吸汁害予防。

④着色促進

- ・袋掛けを行うことで着色が向上する。また鮮明な着色に仕上がる。
- ⇒被袋することにより、地色の抜けや着色が促進される。

⑤適正着果

- ・袋掛け枚数により着果数量が把握でき、適正な着果管理ができる。

✚ 夏季管理

①支柱立て・枝つり

- ・果実の肥大とともに骨格枝（主枝・亜主枝）が下垂するため、果樹支柱を立て上から枝を吊ったり、支柱を立て骨格枝を下から支える。

②新梢管理（徒長枝整理・摘心）

- ・背面から発生した旺盛な新梢を対象に、せん徐するかまたは摘心を行い、樹冠内部に日を当てる。また、薬剤のかかりを良くする。

⇒徒長枝整理：実施時期は6～7月、収穫後の9月までに行う。

（主枝・亜主枝・側枝の基部分を中心に実施）

⇒摘心：5月下旬～6月下旬を目安に旺盛な新梢を5～6 cm程度残して切除。

（日焼け・枝のはげ上がり防止）

※一度に切りすぎると、生理落果や核割れを助長するので、樹冠内に日を当てる程度に軽く実施する。また葉数を減らしすぎると、樹にダメージ与えてしまい樹勢が弱ることもある。